

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【公表番号】特表 2017-513963 (P2017-513963A)

【公表日】平成 29 年 6 月 1 日 (2017.6.1)

【年通号数】公開・登録公報 2017-020

【出願番号】特願 2016-554371 (P2016-554371)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/40 (2006.01)

C 0 9 D 175/06 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

C 0 9 D 7/40 (2018.01)

C 0 8 G 18/65 (2006.01)

C 0 8 G 18/08 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

B 0 5 D 1/36 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 18/40 0 1 8

C 0 9 D 175/06

C 0 9 D 5/02

C 0 9 D 7/12

C 0 8 G 18/65 0 1 1

C 0 8 G 18/65 0 2 3

C 0 8 G 18/08 0 0 4

B 0 5 D 7/24 3 0 1 C

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 1/36 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 31 年 3 月 29 日 (2019.3.29)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 少なくとも 1 種のポリマーであって、

(a) 二量体脂肪酸を含む混合物が、

(b) 少なくとも 1 種の、一般構造式 (I)

【化 1】



(I)

のポリエーテル

(式中、 R は、 C₃ ~ C₆ アルキレンラジカルであり、

n は、前記ポリエーテルが、 450 ~ 2200 g / mol の数平均分子量を有するよう
に選択され、

成分 (a) 及び (b) は、 $0.7/2.3 \sim 1.3/1.7$ のモル比で使用され、
 結果として生じるポリマーは、 $1500 \sim 5000 \text{ g/mol}$ の数平均分子量、及び 10 mg KOH/g 未満の酸価を有する)
 と反応することによって製造可能なポリマーと、
 (B) 少なくとも 1 種の、一般構造式 (I I)
 【化 2】



(II)

のポリエーテルと、

(式中、R は、 $\text{C}_3 \sim \text{C}_6$ アルキレンラジカルであり、
 n は、前記ポリエーテルが、 $250 \sim 3000 \text{ g/mol}$ の数平均分子量を有するように選択される)

(C) 少なくとも 1 種の化合物であって、
 少なくとも 1 種のアニオン性基、及び / 又は少なくとも 1 種の、アニオンを形成することができる官能基を有し、
 及び少なくとも 1 種のイソシアネート反応性官能基を有し、(A) 及び (B) とは異なる化合物と、

(D) 少なくとも 1 種のポリイソシアネートと、

(F) 少なくとも 1 種の化合物であって、

2 種以上のイソシアネート反応性官能基を有し、(A)、(B)、及び (C) とは異なる化合物と、
 が反応することによって製造し得ることを特徴とするポリマー。

【請求項 2】

さらに、(E) 少なくとも 1 種のモノオール、又はジオールであって、(A)、(B)、及び (C) とは異なるモノオール、又はジオールが反応する、請求項 1 に記載のポリマー。

【請求項 3】

さらに、アニオンを形成することができる成分 (C) の基を中和することによって製造し得る、請求項 1 または 2 に記載のポリマー。

【請求項 4】

使用される前記二量体脂肪酸を含む混合物が、少なくとも 90 質量 % の二量体分子、5 質量 % 未満の三量体分子、5 質量 % 未満の単量体分子、及び他の副生成物からなることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 5】

一般構造式 (I) の前記ポリエーテルが、ポリプロピレングリコール、又はポリテトラヒドロフランであり、更に、 $800 \sim 1200 \text{ g/mol}$ の数平均分子量を有することを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 6】

一般構造式 (I I) の前記ポリエーテルが、ポリプロピレングリコール、又はポリテトラヒドロフランであり、更に、 $1800 \sim 2200 \text{ g/mol}$ の数平均分子量を有することを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 7】

成分 (a)、及び (b) が、 $0.9/2.1 \sim 1.1/1.9$ のモル比で使用されることを特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 8】

$5000 \sim 50000 \text{ g/mol}$ の数平均分子量を有することを特徴とする請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 9】

50 mg KOH / g 未満の酸価を有することを特徴とする請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載のポリマー。

【請求項 10】

少なくとも 1 種の、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載のポリマーを含むことを特徴とする着色水性ベースコート材料。

【請求項 11】

前記着色水性ベースコート材料の合計質量に対する、本発明に係るポリマーの質量パーセンテージフラクションの合計が、0.1 質量% ~ 30 質量%であることを特徴とする請求項 10 に記載の着色水性ベースコート材料。

【請求項 12】

更なる結合剤として、少なくとも 1 種の、本発明に係るポリマーとは異なる他のポリウレタン樹脂を含むことを特徴とする請求項 10 又は 11 に記載の着色水性ベースコート材料。

【請求項 13】

ベースコートフィルムとクリアコートフィルムとの付着を促進するためまたはベースコートと最初の仕上げとの付着を促進するため、着色水性ベースコート材料に請求項 1 に記載のポリマーを使用する方法。

【請求項 14】

(1) 着色水性ベースコート材料を基材に塗布し、
(2) 工程 (1) で塗布されたコーティング材料からポリマーフィルムを形成し、
(3) 結果として生じるベースコートフィルムにクリアコート材料を塗布し、続いて、
(4) クリアコートフィルムと共に前記ベースコートフィルムを硬化することによるマルチコート塗料系の製造方法であって、
工程 (1) において、請求項 10 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の着色水性ベースコート材料を使用することを特徴とする製造方法。

【請求項 15】

工程 (1) から生じた前記基材が、コーティング上、及びコーティング内の破損である欠陥部分を有するマルチコート塗料系であることを特徴とする請求項 14 に記載の製造方法。

【請求項 16】

請求項 14 に記載の製造方法によって製造し得ることを特徴とするマルチコート塗料系。

【請求項 17】

前記欠陥部分を有するマルチコート塗料系が、請求項 16 に記載の塗料系であることを特徴とする請求項 15 に記載の製造方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0170

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0170】

この目的のために、表 1 に示した量で、ジメチルプロピオン酸、ジシクロヘキシルメタン 4, 4' - ジイソシアネート、イソホロンジイソシアネート、ネオペンチルグリコール、ポリ THF 2000、PP1、PP2 をメチルエチルケトンと混合し、80 ~ 82 で攪拌しながら反応させる。反応を、DIN EN ISO 3251 に準じて、ジブチルアミンを用いて、イソシアネート分を滴定することによって監視する。イソシアネート含有量が、一定であり、存在する溶液に対して 0.8 ~ 1.2 % に到達するときは、測定される遊離 NCO の量に対して、115 % のモル過剰のトリメチロールプロパンを加える ($n [NCO \text{ プレポリマー}] / n [\text{トリメチロールプロパン}] = 1.15$)。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0175

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0175】

【表1】

表1：ポリウレタンを製造するための成分

成分	質量%			
	PU1	PU2	PU3	PU4
ジメチロールプロピオン酸	108.9	109.5	113.1	109.0
ジシクヘキシルメタン4,4'-ジイソシアネート	587.7	747.4		607.0
イソホロンジイソシアネート			534.8	
ネオペンチルグリコール	22.6	79.5	36.7	35.3
ポリTHF2000		1423.9	873.3	841.2
PP1			822.3	841.2
PP2	1218.7			
トリメチロールプロパン	56.6	86.0	66.6	64.2
ジエタノールアミン	54.8	53.66	53.3	51.37

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0181

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0181】

混合ワニスの製造

混合ワニスを製造するために、まず、第一に、水及びフィロシリケートを、表3のように組み合わせて混合する。混合物が均一となったとき、ポリウレタン結合剤組成物、アクリレート増粘剤、ジメチルエタノールアミン及び水を、記載される順番に、攪拌しながら加える。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0182

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0182】

【表 3】

表 3：混合ワニスを製造するための成分

成分	質量部
水	3 0 0
フィロシリケート (L a p o n i t e (R) R D)	1 0
ポリウレタン結合剤組成 物 (25%固形分、5% P l u r i o l (R) P 9 0 0、70%水)	2 2 8
アクリレート増粘剤	1
ジメチルエタノールアミン	2
水	4 5 0